

現場訪問 ●エンジョイ・ミーティング in 埼玉

「安全」に「楽しく」「バイクに親しんでもらおう」

昨年12月21日、交通教育センターレインボー埼玉で「エンジョイ・ミーティング in 埼玉」が開催された。これは、より多くの方々に「安全」に「楽しく」バイクに親しんでもらうことを目的としたイベントで、100名のライダーが参加した。



会場となった交通教育センターレインボー埼玉には100名のライダーが集まった



インストラクターが一人ひとりの運転を見ながらアドバイス



元Hondaワークスライダーの宮城光さんのトークショー



インストラクターが華麗な技の数々を披露



プログラムの一つ、HMS[※]では、参加者が初級、中級、上級、オフロードに分かれ、より安全な走りをめざすためのトレーニングを行った。初級では、インストラクターが「認知・判断・操作」で最も重要なのは認知です。できるだけ先を観て、前方の情報をより早く正確にキャッチしてください」と強調。パイロンスラロームでは目の前ではなく、常に先のパイロンに視線を向けることに意識しながら、参加者は繰り返し練習に取り組んだ。また、初めての参加者でもHMSをより気軽に楽しみながら体験してもらったため、初級クラスの内容をショートバージョンで実施したエンジョイHMSも行われた。

プログラムの一つ、HMS[※]では、参加者が初級、中級、上級、オフロードに分かれ、より安全な走りをめざすためのトレーニングを行った。初級では、インストラクターが「認知・判断・操作」で最も重要なのは認知です。できるだけ先を観て、前方の情報をより早く正確にキャッチしてください」と強調。パイロンスラロームでは目の前ではなく、常に先のパイロンに視線を向けることに意識しながら、参加者は繰り返し練習に取り組んだ。また、初めての参加者でもHMSをより気軽に楽しみながら体験してもらったため、初級クラスの内容をショートバージョンで実施したエンジョイHMSも行われた。



参加者に好評だったHondaの新型バイクの試乗会

な練習をしていたか」という参加者からの質問に、ホンダの交通教育センターでインストラクターと一緒に練習したエピソードを紹介した。会場にはVER1200F、CBR600RRなどホンダの新型バイクが展示され、参加者はトレーニングの休憩時間を使って試乗した。イベントの最後には、インストラクターがオフロードバイクに乗り、華麗な技を参加者に披露した。埼玉県鴻巣市から来場した28歳の男性は「インストラクターの指導が丁寧でわかりやすいので、HMSを定期的に受講しています。今日は、通常のHMSとは違い、インストラクターの方々の高度な運転技術を見たり、宮城光さんの話を聞くことができたので、たいへん満足できる1日でした」と感想を語った。

※HMS＝Honda モーターサイクリスト・スクール。個人のお客様に楽しく安全運転の知識を身につけていただくことを目的とした参加体験型のスクール。全国7ヵ所のHondaの交通教育センターで開催しており、お客様のスキルやニーズに合わせて、様々なコースが用意されている。



見通しの悪い場所から飛び出してきたものを発見してから、ブレーキをかけてもすぐに停止できないことを体験してもらう。その後、見通しの悪い交差点での安全な通行方法についてアドバイスする

TOPICS 2

滋賀大学「行政の課題解決プロジェクト」 滋賀大学の学生が自転車の交通安全教室を開催

滋賀大学経済学部（滋賀県彦根市）の就業力育成支援室では、学生の「働き方や社会との関わり方を考える力の育成」を目的としたプロジェクト科目を実施している。その一つが「行政の課題解決プロジェクト」自転車対策と公共交通をテーマに。同プロジェクトは昨年10月にスタートし、受講する1～4回生の学生18名が彦根市都市建設部交通対策課の協力を得て、市内の交通課題の解決に向けた検討を行った。



プロジェクト科目を受講している滋賀大学の学生18名（1～4回生）が交通政策イベントを実施

プロジェクト代表である経済学部4回生の田代絵梨佳さんは「私たちは彦根市を活性化させるための実践的な活動に取り組みしてみたいと考え、この科目を受講しています。彦根市が抱える「自転車交通安全の普及啓発」「放置自転車の削減」「路線バスの乗車向上」という3つの課題についての解決策を議論しました」と話す。そして昨年12月15日、学生たちが8回にわたる授業の成果を交通政策イベントという形で発表した。会場は彦根市内の駐車場、3つの課題

「自転車交通安全の普及啓発」のブースでは、出会い頭事故の模擬体験を実施。バスを使って、見通しの悪い交差点を再現し、そこを来場者に自転車を通して通してもらった。通過する直前に、バスのカゲに隠れている学生が新聞紙でつくったボールを投げる。ボールを確認してから、ブレーキをかけるのはボールとぶつかってしまうことを実感してもらった。自転車交通安全を担当した経済学部2回生の川出貴之さんは「彦根市内の自転車事故を調べると、最も多いのは出会い頭事故でした。自分の見えない場所からの飛び出しを多くの自転車利用者の方々に体験してもらうことが、出会い頭事故を防ぐために有効であると考えました」と話す。放置自転車の削減について考えてもらうブースでは、自転車が放置された歩道を再現。そこを来場者に車いすで通り抜けてもらい、放置自転車がどれだけ通行の妨げになっているかを考えてもらった。

NEWS REVIEW

2013年Honda安全運転普及本部 年末ご挨拶会 地域社会と一体となった普及活動を今後も継続

昨年12月6日、Honda 青山ビルにて「2013年Honda安全運転普及本部年末ご挨拶会」が開催され、交通関係者約300名が参加した。報告会では、伊東孝紳・本田技研工業（株）代表取締役社長執行役員が「安全への取組みは環境と並び、Hondaの最重要課題で、交通社会に参加するすべての人の安全を追求するため、グローバルスローガン『Safety for Everyone』のもとに取組みを進めています。取組みの具現化のために『ヒト（安全教育）』『テクノロジー（安全技術）』

「コミュニケーション（安全情報）」の3つの柱を定めました。それぞれを進化させると同時に、相互に連携することで『事故ゼロのモビリティ社会』を実現させたいと思っています。そして、本日お集まりの行政・民間団体の皆様と連携を密にして、幼児から高齢者までライフステージに応じた交通安全教育啓発活動を地域社会と一体となって今後も継続していきます」と挨拶。続いて、吉田宏樹・本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長が、2013年の安全運転普及活

動の報告と今後の取組みについて、映像を交えて紹介した。最後に、来賓を代表して倉田潤・警察庁交通局長が挨拶。「交通安全の普及に関して、すべての人の安全をめざすという崇高な理念に基づく取組みに感銘を受けました。地域に根ざした交通安全活動を展開するなど、国民の交通安全意識の高揚に多大なる貢献をされており、このような先進性・独自性のある活動は警察としてもたいへん心強く感じています」と述べた。報告会の後には、懇談会が開かれ、交通関係者の交流の場となった。



伊東孝紳・本田技研工業（株）代表取締役社長執行役員 倉田潤・警察庁交通局長